

## 電気通信工学教育における情報教育のガイドライン

### 【到達目標 1】

電気通信工学に関する問題の発見・解決のために、ICTを活用できる。

### 【到達度】

電気通信工学分野で必要な情報の所在、構成、背景を理解し利用できる。

コンピュータやネットワークなどを構成するシステムの仕組み、動作を理解し、適切に活用できる。

社会のニーズに応える最新情報を検索・収集・整理できる。

### 【教育内容・教育方法】

と は、コンピュータ工学や情報理論など、電気通信工学に関連するハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を講義、セミナー、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて、実践的に学修させる。

は、インターネットの活用、Web検索などにより、信頼性、合理性、妥当性のある情報を探索させる。

### 【到達度確認の測定手段】

～ は、レポート、発表を通じて、ICTの活用力を確認する。

### 【到達目標 2】

情報通信技術を用いて数値解析、シミュレーションなどを行い、電気通信関連分野の装置やシステムの設計・製作に活用できる。

### 【到達度】

問題の分析や解決に向けてシステム設計、数値解析、解析シミュレータなどのツールを利用できる。

解析や設計した結果を論理的に判断し、その妥当性について判断できる。

解析や設計に関わる諸情報を組み合わせて総合化できる。

### 【教育内容・教育方法】

は、設計・解析にあたって、PBLなどを通じて自らの計画に基づく電子・電気回路、プログラムなどの設計から試作までの工程を実践させる。

は、モデル化、シミュレーションの正当性を他者の意見を考慮に入れ、検証させる。

は、情報を相互に連結するデータベース構築の知識・技能を身につけさせる。

### 【到達度確認の測定手段】

～ は、レポートやプレゼンテーションなどによって、設計、解析に求められるICTの活用能力を確認する。

### 【到達目標 3】

電気通信工学分野の技術者としての社会的責任の重要性を認識し、ICTの適正な使用及び情報の利用について適切な判断ができる。

### 【到達度】

ICTに関連する法規を理解し判断できる。

電気通信工学技術者に求められる情報倫理の判断基準を持つことができる。

### 【教育内容・教育方法】

は、講義やケーススタディなどにより情報通信に関する法規を学修させる。

は、インターネットを利用した情報の収集、加工、発信に求められる自己の内的規制と判断基準をグループ討議などにより確認させる。

**【到達度確認の測定手段】**

は、レポートや小テストなどにより確認する。

は、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより確認する。